

はじめに

Hondaは「存在を期待される企業」であり続けるために、2030年にありたい姿を「2030年ビジョン」としてまとめ、環境面では「カーボンフリー社会の実現をリードする」という方針を掲げています。また、二輪車においては、1994年に発売したCUV-ESを初めとして、電動化技術の導入に取り組んできました。「カーボンフリー社会の実現」のためには、電動二輪車の本格的な普及が重要です。この普及のためには、電動二輪車の現在の課題である航続距離の延長、バッテリー充電時間の短縮が欠かせません。2018年に発表したPCX ELECTRICは、着脱式の「Honda Mobile Power Pack(以下モバイルパワーパック)」を動力源とし、動力源を交換可能とすることで、上記の課題についての1つの解決方法を示しました。

開発のねらい

今回、モバイルパワーパックを動力源とする電動二輪車の第二弾として、ビジネスユース向け電動スクーター、「BENLY e:」シリーズを開発しました。

一般的にビジネスユース向けモデルは、パーソナルユース向けモデルに比べ、一台あたりの走行距離が比較的に長いこと、ビジネスユース向けモデルの電動化は「カーボンフリー社会の実現」に有効と考えます。

また、走行時CO₂排出量ゼロや静粛性などの電動車の特性を取り入れることは、環境負荷低減を求める社会から見て、使う人に対してだけでなく、ビジネスを展開する企業や事業者に対しても環境に配慮するクリーンなイメージを感じさせます。加えて、定常的な走行ルートや距離で稼働し、充電やバッテリー交換場所が事務所など定めやすいため、現在の充電インフラの整備状況を考慮したとき、動力源が交換できるモバイルパワーパックの効力を最大に発揮できると考えました。

開発コンセプトは、

毎日のデリバリーにちょうどいい ビジネスe:スクーター

ビジネスユース向けモデルは、その用途や使用頻度から、積載性や耐久性などが特に高いレベルで求められます。現在市販されているガソリンエンジン搭載のBENLYは、各種配達業務などでの積載性や耐久性を備え、業務中の走行時や押し歩き時に取り回しの良いボディーサイズ、各種配達に使用されるボックスの装着を考慮した広く、フラットなリアデッキ、そして配達業務のような頻繁な乗降でも、その疲労を軽減できるステップスルーのフラットフロアなどが特徴です。